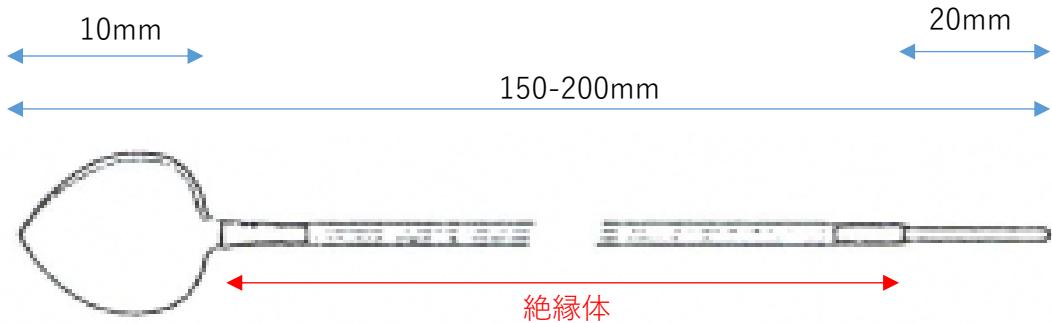


CIRDS(植込み型心臓電気デバイス) 植込み術時の医療材料

市立秋田総合病院
臨床工学センター 岡崎 亨

テーマ	CIRDS植込み術時に使用する医療材料について
概要	<p>CIRDS（植込み型心臓電気デバイス）は心拍数が著しく低下、または上昇した患者様に使用される高度管理医療機器となります。</p> <p>CIRDSを機能させるためには大きく2つパートに分かれており、1つ目はデバイス、そしてもう一つはリード線となります。</p> <p>当製品はリード線にかかわる材料となります。リード線は心臓内に留置する電線のようなものであり、一度植え込まれると、大きな問題がない限り生涯使用し続けるもので、とても重要なパートとなります。そして、このリード線を心臓内のどこに留置するかでも患者の予後に大きく左右してきます。</p> <p>リード線留置の適正な位置を評価するためには電流を流し、心筋の反応を測定することが必要となってきますが、その電流を流す・測定するときに当材料を使用します。以前はメーカーより販売されていたようですが、全国的に徐々に使用頻度が減り、販売終了となった経緯があるようですが、近年では、留置条件測定の際に使用する機会が増えてきており、当院では使用頻度も増えてきている状況です。材料が不足している状況で、現場では必要に応じて電気伝導性のある金属性の手術機器(鉗子)を使用して代用するか、以前使用していた材料を洗浄、滅菌して再利用するという手段をとっていますが、材料の劣化や紛失などで数が徐々に少なくなっています。</p> <p>上記のように鉗子で代用もできますが、本材料のような専用製品ではないため、使い勝手がよくないこともあります。今回提案させていただきました。</p>



材質：ステンレス・スチール、絶縁体？

形状

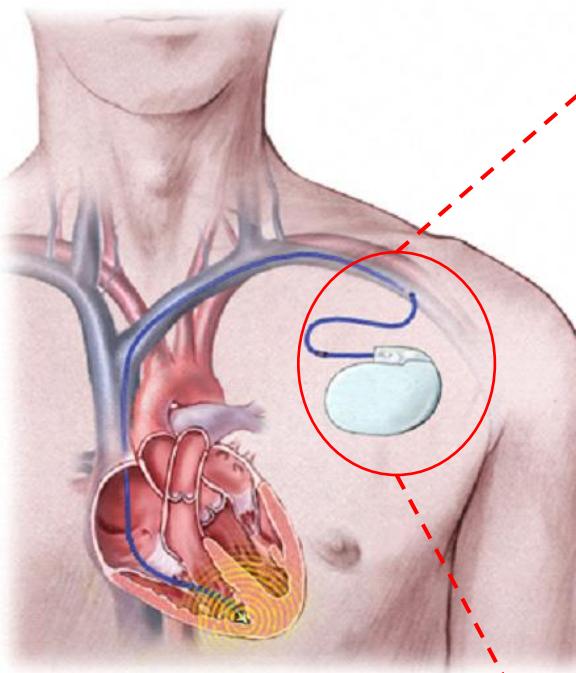
スペード形状の電極とクリップで挟みやすい先端の電極。中間部は絶縁されている。全長は150-200mm程度。スペードの大きさは10mm×10mm。先端の長さは20mm程度。

求められる性能

絶縁部分はフレキシブルに動く。約120°Cの滅菌に対応し、何度も使用できる耐久性。

当院での必要数

年間使用頻度は20～30回程度。2～3個を滅菌し直し、破損するまで使用。



リード線

測定器へ接続

デバイスピケット

想定される使用場面 (発表者の勤務先での)	ペースメーカー植込み術	
該当すると思われる分類	医療機器（クラスⅠ～Ⅳ）	—
	介護福祉機器	—
	その他	—
既存の類似製品	無し	

注) 発表者の主観による。